
太鼓の達人X 爆撃!波導の勇者ルカリオ

HASSE

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

太鼓の達人X 爆撃！波導の勇者ルカリオ

【Nコード】

N9282Z

【作者名】

HASSE

【あらすじ】

山手線町を舞台にどんちゃん達が馬鹿騒ぎ！？

なにもかもぶつとんでるこの物語をとくところあんあれ！

和田どん「読者に対して上から目線じゃね」

読者に読んでほしいように宣伝してるだけなんだけど…

第一話 これがはじまりだ！（前書き）

記念すべき第一話です！（キャラの地味な登場は気にしない）

第一話 これがはじまりだ！

2011年（プロローグで20XX年て言ったけどやっぱやめた）
12月29日 AM9:00 山手線町

今この町はパニック状態になっている。何故なら…

ルカリオ「ふん！今日こそ恐怖のどん底に落としてやるよ！」

町の住民「うわあああああああああああ！」

ルカリオ「はっはっはっ！みるよ！糞人間共が悲鳴をあげてやがるぜ！」

町の住民「誰か医者呼んでこい！あいつの頭がイカレまくってるぞ！」

和田どん「ルカリオ！お前の頭は最初からイカレてると思ってたが、まさかここまでイカレてるとは思わなかったぞ！」

ルカリオ「なっ！くそ！調子にのりやがって！」

和田どん「なんだよ！お前のことを思って…！」

ルカリオ「ただ馬鹿にしてるだけだろ！」

今日、この町で熾烈な言い争いが繰り広げられていた

そして開始から30分経過…

ルカリオ「お前から今度こそ覚えてろよ（泣）！」

和田どん「世界征服する奴がこれくらいで傷つくなよ！」

ルカリオ「うるせえ！」そしてルカリオはその傷ついた心でアジト

に帰ったのであった

AM9:30 和田家

クラッシュ「あいつ強いくせに傷つきやすいなあ」

和田どん「ルカリオ種は打たれ弱いんだろ」

クラッシュ「ていうか殺してやる殺してやるってねーでさっさと

殺せやみたいな感じだよな」

和田かつ「悪口言いたい放題か！」和田どん「かつちゃん駄目だよ
あいつは世界征服をするつまり悪役だぜ？そういう役割を持つ奴
があんな打たれ弱かったら小説として成り立たなくなるだろ」

和田かつ「そだな」

クラツシュ「あっさり認めるなよ！」

AM10:00 廃墟

ルカリオ「くそ！くそ！くそ！」

ルカリオは一人でくそくそ言っていた

ゾロアーク「また、口で追い返されたのか……。あいつらはなかなか
心が折れねえなあ」

ルカリオ「ゾロアーク！今度はお前も一緒に来い！」

ゾロアーク「やだよ。人間共に近づきたくねーからな」

ルカリオ「こつちだつていやでも近づいてんだよー！（泣）」

ルカリオは泣きながらゾロアークをお願いをしていた

AM10:30 和田家

和田どん「大声出しすぎて喉痛い上腹減ったなあ」

和田かつ「まだ十時だよ」

クラツシュ「喉痛いつてどんだけ大声出したんだよ？」

和田どん「あいつを追い払うために犠牲になった喉だぞ？俺がいな
かったらあの言い争いは三時間ぐらいは続いたと思うぞ」

クラツシュ「そこまで続かねーよ。」

皆でわいわい言ってる最中……

ルカリオ「くそ！あいつら！今度こそは〜」

PM1:30 和田家

和田どん「ぶあらへば〜食った食った！」

和田かつ「ぶあらへば〜って何！」

和田どん「うるせえな！なんて叫ぼうと人の勝手だろうが！うわあ
あ！」

クラッシュ「何がしたいんだよ」

和田どん「それよりさ、いいの？」

和田かつ「何がだよ」

和田どん「一話目からこんな感じていいのかって。さすがにこれは
グダグダだよ。G D G D！」

クラッシュ「没一話よりかはいいんじゃないかとオイラは思っ」

没一話は今度お見せします

和田どん「これも正直没だよ。プロローグも没だ」

和田かつ「いや、プロローグはもういいだろ」

皆がわいわいしている最中…

ルカリオ「ああ腹立つ！絶対殺してやる！」

P M 3 : 0 0 和田家

和田どん「3時のおやつだ！T r i c k o r T r e a t！」

和田テツオ「それも終わってるよ！そんな事言わなくてもお菓子
なんかあげねーよ！」

和田どん「ケチが！死ね」

和田テツオ「お前なんかいったかあ、あ、ん！」

和田どん「死ねつつたぜあ、あ、ん！」

皆がお菓子で騒いでる最中…

ルカリオ「くそ！くそ！くそ！くs（蹴 和田どん「お前はさっきからな
んなんだYOおおう！」

P M 6 : 3 0 和田家

和田どん「Take a bath」

和田テツオ「一人で入って沈め」

和田どん「ひどいな(驚)」

和田テツオ「毎日同じこと言うからだろ」

和田どん「お前の事だから『うるせえな！いいから入れ！』みたい
なこというだろうと思ってたのになあ…結構傷ついたよ」

和田テツオ「あそ」

和田どん「……………」

お風呂で言い争いしている最中…

ルカリオ「……………」

道端で倒れ込んでいる

PM7:30 和田家

花ちゃん「夕飯できたよ」

和田どん「えっ！勇者が出て来た!？」

花ちゃん「死ね」

和田どん「皆ひでえよ」

クラッシュ「全部自業自得だろ」

和田どん「なぬっ!」

花ちゃん「今日の夕飯は…」

和田どん「髪の毛ラーメン」

花ちゃん「散れ」

和田かつ「鉛筆そば」

花ちゃん「砕ける」

和田テツオ「布ハンバーグ」

花ちゃん「砕け散れ」

和田テツオ「どんとかつのミックスバーション!？」

クラッシュ「どうでもええわ」

花ちゃん「正解は…花ちゃんスパゲティ！」

和田どん「つまんな」

ドゴツ！！

和田どん「ぶげ！」PM10:00 和田家

和田どん「寝る前と言ったら枕投げだろ！」

クラッシュ「リンゴバスーカ！」

和田かつ「滅びのバーストストリーム！」

和田テツオ「我が生涯に一片の悔い無し！」

和田どん「枕投げじゃねーし、一人勝手に死んでるし」

花ちゃん「さつさと寝ろ！」

ドゴツ！バキッ！ガスッ！

これが和田家の基本的な1日である

ルカリオ「……………（泣）」

第一話 これがはじまりだ！（後書き）

次回予告

テツオ「今年もそろそろ終わるなあ」

どん「この小説も終わるんだなあ」

終わらねーわ！（汗）

次回！第二話 今年最後の日

どん「始まって早々今年が終わるって何だよ」

一秒でも早くやりたかったんだよ

第二話 今年最後の日（前書き）

始まってからついに二話目を迎えるこの小説…

『今年最後の日』

尚、この日だけ特別にキーワードに「今年最後の日」が入っております。

第二話 今年最後の日

2011年12月31日 AM6:30 山手線町

子供がはしゃいでる

どん「おうおう！餓鬼がはしゃいでやがるぜ」

はな「あんたも遊びに行ったら？」

どん「こたつからでたくないでござる」

はな「邪魔だから外行け」

どん「最初からそういえよ。ブス」

バゴーーーーー！

はなが金属バットでどんを100km先までかつ飛ばした

どん「ばいばいきーん！」

はな「さて、私は古代兵器を超える物でも作るかな」

テツオ「そんなの作っちゃ駄目だろ！（汗）」

PM6:35 上空

ヒュユユユユユユン

上空でどんが飛んでいる

どん「花め！今度こそ仕返ししてやんぜ！ハハハハ！ハ〜ヒフ〜
へホ〜！」

あ〇ば〇ま〇「やめるんだ！ばいきんまん！あーんパーンチー！！」
バキッ！

どん「ばいばいきーん！」

AM7:00 和田家

三十分経過

はな「……………」

一時間経過

はな「……………」

三時間経過

はな「……………」

そのまま時間が過ぎていき…

PM 2 : 30 和田家

どんがボロボロになって帰ってきた

どん「た…ただ…いま…」

はな「ちゃんと買ってきたの（怒）」

はなが静かに怒る

どん「全国の店を回って来たけど…どこも置いてなかった…」

はな「役立たず（怒）」

どん「て、てめえ…俺がボロボロになってまで行ってきたんだぞ…」

はな「歩いてから15分に爆薬剤売ってる店あるのに…」

どん「それを先に言えー！」

PM 4 : 00 和田家

どん「あーあ、せつかく今年最後の日だというのに、五時間も無駄にしちゃったよ」

テツオ「てか、よく五時間で全部の店回ってきたな」

かつ「一秒に一店舗でも間に合うかどうかじゃね」

テツオ「俺だったら半年は掛かるかな？」

かつ「それは遅過ぎると思う」

クラツシュ「ただいまー！」

クラツシュが帰ってきた

どん「おかえりークラツシュ」

クラツシュ「どんちゃん！頼みがあんだけど…」

どん「なんだよ？」

クラツシュ「ここから北海道方面に進んでいくと、リンゴ売ってる

店あるから行ってきて〜」

どん「あいよ」

三十分経過

クラツシュ「……………」

PM 6:30 和田家

どん「ただいまー！」

クラツシュ「遅すぎだよ！どこ行ってたんだよー！」

どん「青森まで行って一個150円（税抜き）のリンゴを三個買った
てきた」

クラツシュ「何で青森まで行ってんだよー！ここから真っ直ぐ行って30分歩けば一個100円（税抜き）のリンゴを置いてる店があるのによー！」

どん「お前の説明が下手くそなんだよ！何が北海道方面だよ！北海道いらねえだろ！」

はな「うるさいー！ー！ー！」

どん ビリッ 「わっ!」

かつ ビリッ 「えっ!」

テツオ ビリッ 「何だ!」

クラッシュ ビリッ 「いでっ!」

ガラガラ (家が少し崩れる音)

ボゴオツ! (外の道路が壊れる音)

町の住民「ひいっ!」

さらにオゾン層にひびがはいる

どん「どんだけすげーのお前!?!?」

はな「あんたたちがうるさいからでしょ」

かつ「いや…これはやりすぎ」

はな「はっ?」

パアアアアアン (かつがバラバラになる音)

どん「かつちゃーん」

はな「とにかく、あんたたちは黙って家の修理でもしてる(腹黒)」

どん「HEY」

バゴツ!

どん「ふあい(泣)」

PM8:30 やまのて温泉

どん「あーあ!今年最後の日なのに最初から最後までパシられた
だけじゃねーか!」

かつ「おい!あまり大声出すと、地球が壊滅するぞ!」

どん「何で!?(汗)」

テツオ「今日の花ちゃん怖かったなあ…」

かつ「ああ、散々な目にあっただけだ…」

どん「おれが一番散々な目にあっただけだ」

クラッシュ「お前のは自業自得なだけだろ」

どん「二話連続で同じこと言つなよ…」
かつ「今日ルカリオ出なかったね」
どん「いや、俺の上空旅で一瞬だけ出たぞ」
かつ「お前の口からでただけだろ」

皆で楽しく温泉に入り

そしてついに…

その時が来た…

PM 11:55 和田家

どんとかつとテツオとクラッシュの四人が肩を組んでる

どん「ついに来たでお前ら！」

かつ「ああ、いよいよだな」

テツオ「ついにこの時が来るのか…」

クラッシュ「年に一度しかないしチャンスは一度だけだぞ」

どん「ああ、失敗したら気まずい一年を迎える事になるぞ」

テツオ「作者も今年最後の日で誤字脱字があつたら気まずい事になると必死だからな」

そしてついにその時を迎えた…

PM 11:59:30

どん「来た…」 ドキドキ

かつ「うん…」 ドキドキ

テツオ「絶対成功させようぜ」 ドキドキ

クラッシュ「ああ…」 ドキドキ

どん「行くぞ！」

3

2

1

「いえーい！い！い！い！」

2012年01月01日 AM0:00…

この日…山手線町に…綺麗な花が咲いた…

いい思いでありがとう2011年…

f i n

第二話 今年最後の日（後書き）

次回予告

どん「新年あけましておめでと〜ございませす。そして今年もよろしくお願ひします」

次回！2012年編！第三話 新しい年！

どん「たった二話で2011年編が終わるとか…」

第三話 新しい年！（前書き）

2012年編！スタート！！

今回はどん&mp.かつの仲良しおつかいと初日の出です

TDM解説の所はこれからも使われるので、よく見といた方がいいですよ

第三話 新しい年！

2012年01月01日 AM1:30 山手線町の商店街

どん「いや〜、いつもはこの時間だったら全ての店が閉まってる筈なのに今日はどこも閉まってないな」

かつ「逆に今日昼間は店閉まってたよね？」

どん「しかも見るよあれを」

かつ「ん？」

太鼓祭開催中！皆来てね〜 というポスターがある

どん「深夜にイベントとは、本当に今日は特別という感じだな」

かつ「花ちゃんが今の内に食材買ってこいってた理由が分かったぜ」

どん「確かに、明日の昼間も休みそうだしな」

AM1:45 魚屋さん

店員「よお！糞太鼓！今日は年越しセールだ！」

どん&mp:かつ「誰が糞太鼓やねん」

店員「サンマが1kg百円だ！」

どん「なぬ！」

店員「しかもマグロも1kg百円だぞ？」

かつ「ほあ〜」

店員「さらにさらに！カツオも1kg百円だー！」

どん「全部1kg百円じゃねーかー！」

店員「いや、キンメダイは150円だ」

かつ「なんで!？」

どん「花ちゃんに渡されたお小遣いはいくらだ？」

かつ「千円」

どん「じゃあマグロとししゃもくれ」

店員「なぜししゃも!？」

どん「え?」

店員「あ、いや、和田家にししゃもが嫌いな奴多かつた気がするんだが…」

どん「あ、そうだな。じゃあ500gでいいや」

店員「150円」

どん「ほれ」

店員「あいよ。まいどあり!」

どん「じゃあな」

AM2:00 山手線町の商店街

どん「もう2時を回ったか…」

かつ「あれ?何か怪しいポスターが貼ってあんど」

どん「は?どれどれ…」

TDMスタジアムついに建設完了!

どん「あれ本気だったんだな」

かつ「TDMって何?」

どん「は!?!?お前まじかよ!?!」

かつ「まじだけど?」

どん「TDMってのは、TAIKO DRUM MASTER(太鼓の達人)の略だぞ!?!お前太鼓の達人の第二主人公じゃねえのかよ!?!」

かつ「TDMっていう略しねーからな。知らなかった」

どん「で、そのTDMっていう会社がこのポスターに書いてあるスタジアムを作った訳だ」

かつ「TDMっていう会社があることも知らなかった」

どん「TDM会社は最近出来たばっかだからな」

かつ「TDMスタジアムって何のためにあんの？」

どん「それは知らねーな。なにすんだ？」

かつ「やべ！もう二時半だ！！」

どん「もう二時半か」

かつ「ギャグ小説のくせに対してギャグってないような気がするんだが…」

どん「ギャグってないってなに！？」

かつ「それよりも早く買い物しねーとやばくないか？」

どん「そうだな。何買うか」

かつ「野菜！野菜がもうなかったはずだ！」

どん「じゃああそこに行くか…」

二人はそのまま買い物続け…

AM4:00 山手線町の商店街

どん「店が閉まってきたな」

かつ「そうだ！初日の出に行かねーか！？」

どん「いいね！たまには二人でのんびりするか」

かつ「さっきからずっとのんびりしてなかった（汗）」

どん「よし！初日の出が見える場所ついたら…あそこだよな！」

かつ「行くか！！」

AM4:45 山手線町の東公園の丘の上

どん「日が昇ってくんのはいつだっけ？」

かつ「6時くらいじゃなかったか？」

AM5:45 東公園の丘の上

山の後ろに光りが指してくる

どん「もうそろそろだな…」

かつ「前回もこんな感じじゃなかったか？」

どん「何でもいいだろ」

すると、後ろから誰かの声がする

テツオ「おーい！どんちゃん！かつちゃん！」

どん&かつ「テツオ!？」

花「帰ってこないと思ったら…こんな所にいたのね。どうして私達を呼ばなかったの？」

どん「お前らを呼ぶのがめんどくさかったんだよ」

クラッシュ「ほらほら、そんな事言っていないで、見ろよ！日が昇ってきたぞ！」

クラッシュの言つとおり、確かに綺麗な日が昇ってきた

皆「おおおおおー!」

2012年01月01日 AM6:00 山手線町の東公園の丘の上

皆の目に映ってるのは、絶景で溢れていた…

どん「来年は、皆が笑顔になれる良い年を迎えられますように…」

第三話 新しい年！（後書き）

いえーい！次回からフリーテーマだぜ！

次回予告

どん「ルカリオ！お前まじかよ!？」

ルカリオ「ああ、俺はいい加減飽き飽きしていた頃だ。そろそろ殺させてもらうぞ」

サーナイト「そうはさせるかよ！ルカリオ！」

ルカリオ「お前は……」

どん「本当何なんだよ」（泣）」

次回！第四話 ルカリオとサーナイト

どん「サーナイトってあんな男っぽい奴だったんだな」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9282z/>

太鼓の達人X 爆撃!波導の勇者ルカリオ

2012年1月1日01時50分発行